

(創業の経緯)

ガリ版に出会って

昭和 28 年 7 月、

法政大学在学中、学業の夏季休暇 2 か月間の内 1 か月間を、岩手県九戸郡小軽米村字円子の山奥で、伯父が展開する今野産業(株)鉄鉱石鉱山の選鉱夫を手伝いに行くべき予定を、何故か札幌でのアルバイト先を数箇所見当つけて帰宅。

直ぐに母親へ報告したところ、我が家の 2 階大部屋 1 室に親子 3 人で暮らしている増田泰三氏という「何か字を書く仕事をしているから、会って話を聞いてみては」と勧められたのです。会ってみると、増田氏はガリ版書きを仕事としていました。

「ガリ版書き」と一般には知られていない、珍しい職業。私は、学校の事務室や職員室で見たことはありますが、全くの門外漢ながら何故か強く惹かれるものがありました。

それは『完全な請負制であるということ。』『努力次第で収入が増えるということ。』傍らで聞いていた母親が乗り気になっていたことでもあり、

「私に出来そうか、如何でしょうか？」と尋ねると、『本人の努力次第、根気の必要な仕事ですよ。』との返事。そして『技術者として収入を得るまで 2 か月程度を要するが、早い人は 3 週間程度で最低限の技能を習得して、職業人入りする場合があります。』と、『又、途中で挫折する場合がありますよ。』とも付け加えられました。

私は即座に決断し「ご教導願したい。」と申し入れると、増田氏は力強く『一緒に遣りましょう！』と快諾を感じる返答を得たのでした。

当時の請負価格は、B4 判横書き 1,600 字詰 (A プリント罫) 1 枚が 120 円から 150 円程度。1,600 字は 1 枚当りの字詰めのこと、A プリント罫は一般的なものです。実際には 1,600 字を一杯に書くことは全く無く、70 から 80% が平均的で、ものによっては 500 字とか 600 字で 1 枚という、喜ばしいものに当たる事もあり、字数の多少に拘わらず 1 枚は 1 枚としての単価でありました。

この、創業者の何気ない札幌への帰省が、現在まで続く会社の原点となりました。

私の父が知人から筆耕即ち謄写印刷を生業とする人達がいることを、詳しく聞いて来たのです。

それを聞いた私は、印刷会社の操業を考え、相談すると、五水房 (中央区北 5 条西 12 丁目) という文房具販売と謄写印刷業を営む会社を紹介してもらい、見習いに入りました。

それからは、石川社長が印刷機に向かっているのを見付けては、私が「実際にやらせて下さい。」と申し出て実地訓練を受けたり、謄写印刷を全てに率先体当たりで身に付け、僅か 4 か月足らずの短い間でしたが、熟練者の域には程遠いながら、浅く広く全般に亘って取得させて頂きました。

所期の計画通り謄写印刷の企業化を実行したいと思い、兎にも角にも作業場を借りようと、中央区南 1 条西 8 丁目に祀られている三吉神社の裏手別棟で、神主さんの弟さんが新築家屋に移転するので、空いた家を貸すことになり、借家話が出て実を結び、無事翌年 3 月に移転完了となった。

1954 年 (昭 29) 1 月元旦、お神酒を下げ家族皆でお屠蘇 (とそ) を祝った後、両親に五水房・石川社長の好意、佐藤栄郎さんや増田泰三氏との交流などを説明し、自分の計画について報告しました。そして両親の意見を求めたのですが、両親は事業内容も知らず急な問題に、どう返答して良いか戸惑うばかりで、母曰く「今云えることは、お前が進もうとしている道なのだから、失敗もあろうが突き進むべきでしょうね。そして以前にもいったが、

長男なのだから、独立独歩の精神で世を渡ることを忘れないでね。」とのご託宣でした。言葉の端には、お前の肩には祖父母両親妹弟達がいるのだからね、と云いた気でした。

1954年（昭29）1月31日、学業を忘れて技能習得にのめり込んで6か月余、ここで大学に退学願いを提出し、2年修了で中途退学となり、教養部修了の資格を持っての中途退学です。蔭に学費の完納がありました。伯父・今野幸吉が忘れずに納入していたのです。

以後、約1年余を開業に向って、筆耕の下請を行いながら、諸準備に入りました。

社名が決まる

1955年（昭30）4月1日、納入業者名の問題になり『この際、君も独立した社名を使ったら如何かね。自分は以前から社名について考えていたのだが、実は普段から何かに付けて相談していた中西写真製版（略称：中西製版）の佐藤総務部長に、「良いネームがあったら」と相談し、「楡＝エルム＝を頭文字に使うのはどうでしょうかね。」というヒントを貰っていた。彼中西製版の佐藤さんは北大文学部出身者とのこと。そこで佐藤栄郎さんが、私に向かって『自分は「楡図案社」にするから、君は「楡印刷社」にしてはどうかね。兄弟会社として得意先にも宣伝しましょう。』と云う提案により簡単に決まったのです。私は、楡という文字が好きでしたので、佐藤さんの私に対する誠意を十分に受け取れる提言でありました。

このような経緯で、楡印刷という会社名になりました。